

特別展示

1909 現代名家百幅画会

— 百幅百態、皆、当今の名手たり —

- 会期 : 2023年1月7日(土) → 2月13日(月)
- 会場 : 高島屋史料館 企画展示室 (大阪市浪速区日本橋 3-5-25 高島屋東別館 3階)
- 開館時間 : 午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
- 休館日 : 火・水曜日
- 入館料 : 無料

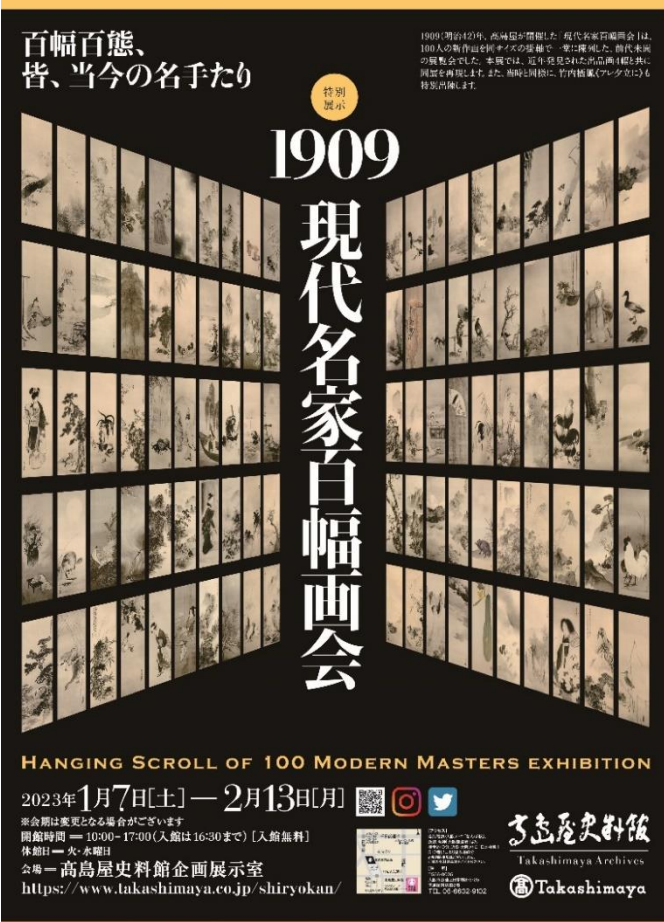
高島屋史料館では、2023年1月7日(土)より2月13日(月)まで、
特別展示「1909 現代名家百幅画会」を開催いたします。

1909(明治42)年の冬、高島屋は、京都・大阪・東京の各店で、「現代名家百幅画会」を開催しました。これは、当時の著名画家100人に新作画(絹本尺五〔幅1尺5寸=約45cm〕に統一)を依頼し、寄せられた100作を同じ表装で100幅の掛軸に仕立て、一堂に展観した高島屋初の展覧会でした。東西の100名家の新作を揃え、さらに“番外”として竹内栖鳳《アレタ立に》(第3回文展出品)を会場内に特別陳列し、大いに話題を集めました。

展覧会の成功は、1911(同44)年の高島屋美術部(美術品の展示・販売部門)の創設に結びつきました。

本展では、近年発見された出品画4幅と共に「現代名家百幅画会」の再現を試み、その歴史的意義を考えます。

100年以上も前に高島屋が開いた前代未聞の展覧会をお楽しみいただければ幸いです。



百幅百態、
皆、当今の名手たり

特別
展示

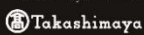
1909 現代名家百幅画会

HANGING SCROLL OF 100 MODERN MASTERS EXHIBITION

2023年1月7日[土] — 2月13日[月]

※会期は変更になる場合がございます
開館時間 — 10:00 - 17:00 (入館は16:30まで) [入館無料]
休館日 — 火・水曜日
会場 — 高島屋史料館 企画展示室
<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/>

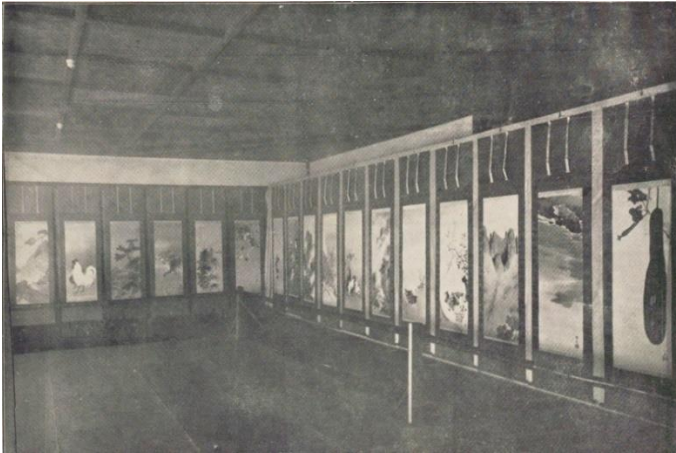
1909(明治42)年、高島屋が開催した「現代名家百幅画会」は、100人の新作家の新作の展覧会として、堂々開催された。前代未聞の展覧会でした。本展では、近年発見された出品画4幅と共に、再現を試みます。また、特別陳列に、竹内栖鳳《アレタ立に》も特別展示します。

高島屋史料館
Takashimaya Archives


展示内容

1. 「現代名家百幅画会」開催

第1回文展（日本初の官設展「文部省美術展覧会」）が開催されたのは、1907（明治40）年10月。以後、文展は毎年東京上野で開催され、文展出品作は毎回新聞・雑誌などでたちまち話題となります。国内に美術を鑑賞し愛好する人々が増え、世間の美術への関心は急速にたかまっていました。



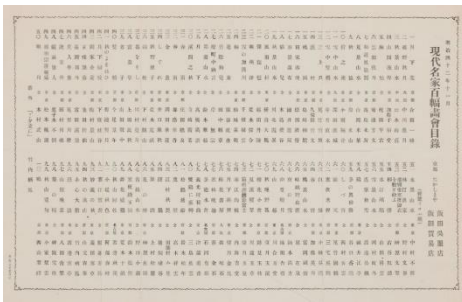
そこで、高島屋でも新作画の展覧会を企画。1909（同42）年11月から12月にかけて、高島屋各店（京都本店・大阪心斎橋店・東京丸の内店）で「現代名家百幅画会」を開催しました。

画像：現代名家百幅画会 京都店会場陳列風景

※画像提供：東京大学総合図書館

2. 竹内栖鳳《アレタ立に》を特別出陳

百幅画会の出品目録には、高島屋の依頼に応じた画家100名（京都49・東京43・大阪4・愛知4）の雅号イロハ順に100作の画題が掲載されています。これは会場の陳列順でもあり、大家から新進気鋭の若手までの100作が整然と並びました。さらに“番外”として竹内栖鳳の《アレタ立に》を特別出陳しました。同作は第3回文展出品作で開会早々大評判となり、新聞各紙には作品批評が続々掲載されました。東京で公開され話題沸騰の《アレタ立に》を、京都・大阪で見ることができる百幅画会へ多くの方が足を運んだものとみられます。当時と同様に本展でも特別出陳します。



現代名家百幅画会

出品目録

1909(明治42)年

竹内栖鳳

《アレタ立に》

1909年

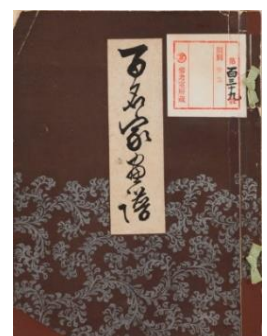
絹本着彩

3. 作品画集『百名家画譜』発行

百幅画会の出品画100作の図版を掲載した『百名家画譜』（1910〔明治43〕年1月発行）は、高島屋が初めて制作した画集。表紙題字は帝室博物館（現 東京国立博物館）総長・股野琢（1838～1921）。股野は「百幅百態、皆、当今の名手たり」「昌代の一美観（めでたい世の麗しい見もの）」であると序文を寄せています。

『百名家画譜』

1910年発行



4. 百幅画会出品画の発見

100 幅の行方は杳として知れませんでした。2014(平成 26)年、出品No.95 竹内栖鳳《小心胆大》の寄贈を受けました。そして 2022(令和 4)年、さらに、出品No.9 岸米山《秋猿》、出品No.75 望月金鳳《月下遊狸》の寄贈を受け、本展で初公開する運びとなりました。《秋猿》《月下遊狸》は当時の表装のままであり、ここで初めて百幅画会の表装が明らかになりました。さらに、笠岡市立竹喬美術館寄託品・都路華香《春雨図》は、百幅画会出品作No.32《春雨》であることが判明しました。その所在がようやく明らかとなった 4 幅を展示します。



No.95
竹内栖鳳
《小心胆大》
1909 年
絹本着彩



No.32
都路華香
《春雨図》
1909 年
絹本着彩

笠岡市立竹喬美術館寄託品



No.9 初公開
岸米山《秋猿》1909 年
絹本着彩 ※表具は当時のまま



No.75 初公開
望月金鳳《月下遊狸》1909 年
絹本着彩 ※表具は当時のまま

5. 「現代名家百幅画会」を再現

当時、三都(京都・大阪・東京)の新聞各紙は、「近来の見もの」であると百幅画会を取り上げ、出品画写真や展覧会の批評文を掲載しました。各批評のうち総じて評価が高かったのは、No.20 横山大観《風雨山村》、No.51 中村不折《水墨山水》、No.65 富岡鉄斎《瓏景山水》、No.86 榊原蕉園《花の酔》、No.93 菱田春草《妙義の秋》、No.95 竹内栖鳳《小心胆大》などでした。本展では、画集『百名家画譜』によって知られる100枚の画像パネルで、当時の会場の再現を試みます。

『百名家画譜』1910(明治43)年発行より



現代名家百幅画会では、上村松園が描き直して再出品した逸話もご紹介します。そのほか、《アレタ立に》下絵(京都市美術館蔵)画像パネル、染織品下絵《アレタ立に》(当館蔵)など関連資料も展示します。

学芸員によるギャラリートーク

会期中の毎週土曜日 14:00~(約30分)

※お申込み不要、開始時間までに企画展示室にお集まりください。状況により、中止する場合がございます。